

3年生 進路へ待ったなし！～ 校長がラスボス。面接練習始まる～

昨日の放課後、私のところに3年生のS君が、『先生、入試の面接練習をしてください』と頼みに来ました。訊くと本番は7月11日(月)とのこと。すると練習は10日(金)しかありません。すでに面接経験は積んでいて、私はその日の最後ということになりました。

そして本日、模擬面接開始。S君は部活動で鍛えたコミュニケーション力と粘り強さを長所に、いかにこの学校に入りたいかを、志望校ならではの特長と将来の展望まで押さえてアピールできました。

毎年感じますが、3年生が精神的に一番大きく成長するのが面接練習です。それは頼れるものは自分しかないので必死に考え答えるからです。普段の教育活動も、そのような場面をできるだけ作り、主体的な考えができる生徒を育てていきたいと思っています。

最後に、S君の本番がうまくいきますよう、陰ながら応援しています。



導いてくれたのは誰？ ～ 陰で支えてくださる人の尊さ～

今度の出張先の会場は小海高校。南佐久郡は未知の私にとって、これは冒険旅行です。職員録を見てみると小海高校でよく知る人はたった一人。その方は、昨年度お世話になり今年当校へ転勤された校用技師のKさんでした。

心細い当日。臼田を過ぎると雨が降り始め、谷が狭まってきました。佐久穂からさらに南進すると小海高校の看板がある細い道を発見。「こんな細い道に入って大丈夫だろうか？」と案じていると、小海高校は直進という表示が。さらにつづら折りの暗く狭い山道を登ると、不安になるタイミングで小海高校の案内板が出てきます。案内板だけが頼りで青息吐息、何とか迷わず学校に到着できました。

会議後、小海高校の校長先生にKさんの様子を尋ねたら、Kさんは『蓼科高校の校長は軽トラで来るから、案内板を出さないと迷う』と、雨の中取り付けてくださったと教えてくれました。笑っていた他の人は、高級車に乗っています。カーナビのない軽トラに乗って来たのは私だけでしょう。教えられなければ分からないところで、私を支えてくださったKさん。昨年度の雪の日も、翌日朝困るからと日曜に誰にも知れず出勤し、除雪してくださったことが思い出されます。その慈悲深さに心より感謝しています。



愛車「田舎のベンツ」

困ったお話(その4) ありがたいピンポンダッシュ

週末、自宅がある小川村へ帰った時のことだ。家のチャイムが鳴ったので、出てみたらドアの外には誰もいない。その代わりに取っ手に紙袋が下がっていたのでドキッとした。中身を見たらキュウリだった。

あぶない、現金だったらどうしようと思った。野菜だったら元助役や某夫妻からではないし、考えたら私は会社役員や政治家でもなかった。おそらく近所の農家からだとは思った。きっと、単身赴任で野菜も食わず、学校に生えたキノコを食べて笑っている私を憐れみ、施してくださったに違いない。ありがたいことである。

でも、誰がくださったのだろう。近所の思い当たる方々の顔を思い浮かべたが特定できない。このままお礼が言えないのは困る。そこで無い知恵を絞り推理を試みた。「チャイムが鳴ってからドアを開けるのに5秒あまり。ピンポンダッシュをしなければ成功しない。」 「高齢者では無理。足が速い人といえど…」

神推理がひらめいた。かつて村民運動会でリレー選手として活躍し、わが地区を優勝に導いた農家、Nさんでは？ 後日彼に会った時、そのことを尋ねると、あっさり認めた。やった、思った通りだ。でも彼は、まさか村民運動会がきっかけで顔が割れるとは思っていなかっただろう。

って、なんの話だったっけ？

追記 返礼に「お菓子をピンポンダッシュで届けてえでさえ、作っとくらえ」と妻に頼んだら、叱られた。

